



吉川英梨

本日は第三管区海上保安本部にある、東京湾海上交通センターのお話です。縁あって、私は2度もこちらを見学させていただいています。(この場を借りて、いつもありがとうございます)

私はもともと警察小説を書いていることもあり、海上保安庁の各部署を「警察でいうところのXXかな」と比べながら組織を理解しようとする癖があります。

今回もそうです。東京湾海上交通センターのモニターだらけのフロアを見たとき「ここは各都道府県警察本部にある通信指令センターみたいところか

「海上保安庁があるから、バナナが食べられるね」

な」と勘違いしました。

私はこれまで警視庁、北海道警察本部、埼玉県警本部の通信指令センターを見たことがありますが、この東京湾海上交通センターは、埼玉県警の通信指令センターと規模感や雰囲気がよく似ていたのです。

東京湾を航行する船の安全のための情報提供や航行管制がお主な業務と聞き、警察の通信指令センターというよりも空港の管制塔の業務に近いのかなと理解しました。

レーダーやAIS、テレビカメラで船舶の動静を把握している様子は非常にシステマティックです。5分後、10分後の船の位置を予測するシステムを見せてもらったときには「すごい！これ面白い！」と子供のように感嘆してしまいました。

先に謝っておきますが、ミステリー作家の性です……業務の

警察の通信指令センターにも似た東京湾海上交通センター
|| 筆者撮影



話を聞きながらも、「東京湾岸に7カ所あるレーダー局を爆破して浦賀水道を混乱させる」とか、「実はここの管制官がテロリストで、船が衝突するように仕向ける」とか、犯罪に関する想像がわっと広がってしまいます。こどもまた、作家の想像力を駆り立てる場所でもありました。

裏を返せば、ここの管制官の

方々の監視や誘導が適切でない、事故が起こるといことです。

海上保安庁と言うとまずは海猿、巡視船の活躍が浮かびますが、こういった縁の下の力持ちの人々の、日々の正確な業務の上で、東京湾の船が安全に航行できているのだと感心しました。

翌朝、子供たちの朝食を作っているときに取り出したバナナが、フィリピン産であることに気が付きました。もりもりバナナを食べる子供たちに、これが遠い海の向こうから浦賀水道、東京湾をやってきたこと、船で混みあう海域の安全を支えている海上保安官がいるんだよ、という話をしてみました。

(子供たちは私が撮影した海上保安庁の動画を見るのが大好きです)

「ふうん、海上保安庁があるから、おいしいバナナがいつでも食べられるんだね」と、優等生キャラの長男。「えっ、海上保安庁はヘリコプターからぶら下がるし、バナナも運んでいるの？」と、まだまだ幼い次男は理解がめちゃくちゃでしたが(笑)。(つづく)

二回は来年1月14日号に掲載します

混みあう海域の航行支える東京湾海上交通センター